

「こんなときは神経内科に行こう!」

パーキンソン病を知るセミナー in 新潟

**受講者募集
参加費無料!**
先着400名様

50～60歳代で発症することが多く、国内には約15万～18万人の患者さんがいると推定されているパーキンソン病は脳のほかの病気でも、よく似た症状を示すことがあり、なかなかパーキンソン病と診

断がつかないケースも見受けられます。このシンポジウムでは、パーキンソン病をはじめとする脳や神経の病気について、その専門家である神経内科のお医者さんが皆さんにわかりやすく解説します。

日時:**4月5日(日) 13:30～16:00**
会場:**朱鷺メッセ 国際会議室(マリンホール)** (新潟駅徒歩20分)

(注) 参加申し込み多数のため、会場を変更しました。
開催日時には変更はございません。

神経内科は患者さんをていねいに診て、 神経や脳の病気を見つけ、治療します。

神経内科医は筋肉から脳に至るまで、きわめて多岐にわたる疾患を、日々最新の知見を習得しつつ診療しています。

神経内科医は「全身を診るお医者さん」

全身に張り巡らされた神経は、脳を使って思い出したり考えたりする認知機能から、筋肉を使って歩いたり走ったりする運動機能、視覚・聴覚・温度覚・痛覚・触覚な

どの感覚器を用いた情報伝達機能、さらには呼吸・消化・循環・発汗など、意識せずに体が生命活動が続けるための自律神経にいたるまで、体全体がうまく調和し、機能するために休みなく働いています。神経内科医は、全身をコントロールする神経の不調を的確に診断する「全身を診るお医者さん」として、とても貴重な存在です。

頭痛から神経難病まで 最善の治療法を提示

神経内科では、頭痛、認知症、脳卒中など、比較的患者さんの多い病気から、患者さんの少ない神経難病までを扱います。患者さんをていねいに診察して病気の実態を把握し、さまざまな検査を加えて原因を突き止め、患者さん一人一人の生活に即した最善の治療法を提供するのが神経内科医です。

◆プログラム

総司会 新潟大学脳研究所 神経内科学分野 教授 **西澤 正豊先生**

【I部】講演会 13:35～14:55

パーキンソン病の症状

—運動症状・非運動症状と対処法— (下畑 享良先生)

パーキンソン病の治療

—今できる治療から将来の展望まで— (橋本 隆男先生)

【II部】15:10～15:50

パーキンソン病 討論会

新潟大学脳研究所 神経内科学分野 准教授 **下畑 享良先生**

慈泉会 相澤病院 神経内科 統括医長 **橋本 隆男先生**

西新潟中央病院 神経内科 部長 **小池 亮子先生**

全国パーキンソン病友の会 新潟県支部 支部会長 **小林 雅弘さん**

◆申し込み方法

お名前・ご住所・お電話番号・年齢・性別をご記入の上、FAXまたは郵送でお申し込みください。ホームページからお申し込みいただけます。先着順で参加証を郵送しますのでお間違いのないようご記入ください。

ファックスの場合 FAX 03-5550-6550

郵 送 の 場 合 〒104-8176 東京都中央区銀座7-13-20

(株)日本経済社内

「こんなときは神経内科に行こう! 新潟セミナー」係宛

ホームページ:「神経内科フォーラム」で検索してください。

http://www.neurology-forum.org/

【お問い合わせ先】TEL 03-5550-6263 (平日10:00～16:00)

【締め切り】3月20日必着 (先着順で定員になり次第締め切らせていただきます)

共催: 神経内科フォーラム グラクソ・スミスクライン株式会社

後援: 一般社団法人 日本神経学会 全国パーキンソン病友の会新潟県支部

セミナー講師の先生にインタビュー

4月5日に開催する「こんなときは神経内科に行こう! パーキンソン病を知るセミナー in 新潟」講師の先生方にお話を聞きました。

◆神経内科医の使命について

新潟大学脳研究所 神経内科学分野 教授 **西澤 正豊先生**

私たち神経内科医は、患者さんとその家族が地域社会の中で、その人らしく生きられるようにサポートすることを使命と考えています。病気の診断と治療にとどまらず、患者さんご家族の希望が実現できるように、様々なお手伝いをして行きます。神経難病の患者さんには、多くのサポートが必要になりますが、たとえ難病になっても、患者さんご家族が住み慣れた地域で、自分らしく生きていけるように、関連する多くの専門職と協力して支援ネットワークを築き、患者さんを支えていくことを目指しています。熱意をもって取り組めば、道は拓けると信じています。セミナー会場でお会いすることを楽しみにしています。

◆パーキンソン病の症状について

新潟大学脳研究所 神経内科学分野 准教授 **下畑 享良先生**

パーキンソン病は、ふるえなどの運動症状のほかにも、不眠やうつなど様々な不調をとともう病気です。体の不調を感じたら、一人で不安を抱え込まず、主治医に伝えて適切な治療法を見つけてもらいましょう。

◆パーキンソン病の治療について

慈泉会 相澤病院 神経内科 統括医長 **橋本 隆男先生**

パーキンソン病の治療法は、近年飛躍的に研究が進み、選択肢も増えています。神経内科医は、多岐にわたる治療法について学び、患者さん一人一人の症状と生活スタイルに合った治療法を提案しています。

チェック ☒ **こんな症状があれば
神経内科へ**

- ☐ 頭の痛み
- ☐ もの忘れ
- ☐ しびれ
- ☐ めまい
- ☐ ふるえ
- ☐ うまく力が入らない
- ☐ 歩きにくい、ふらつき、つっぱり
- ☐ むせる
- ☐ しゃべりにくい
- ☐ ひきつけ、けいれん
- ☐ ものが二重に見える

グラクソ・スミスクライン株式会社

〒151-8566 東京都渋谷区千駄ヶ谷4-6-15 GSKビル
http://glaxosmithkline.co.jp

